

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320134

研究課題名（和文） 文書史料による近代中央アジアのイスラーム社会史研究

 研究課題名（英文） Historical Studies on Islamic Society in Modern Central Asia
Based on Historical Documents

研究代表者

堀川 徹 (HORIKAWA TORU)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60108967

研究成果の概要（和文）：本研究は、ロシア帝国による中央アジア支配期のイスラーム社会の実態を、文書等の史料を利用して明らかにしようとしたものである。プロジェクトは、歴史学と法学を専門とする参加者によって、各自のテーマに沿った研究と、研究会での発表・討議によって推進され、研究の対象地域も中央アジアから中央ユーラシア全域へと拡大した。個々の研究成果は、報告書の形で京都外国語大学のホームページ上で公開し、それに基づき来春『近代中央ユーラシアの法制度』（仮題）を上梓する予定である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project was to clarify the characteristics of local Islamic societies under Russian rule in Central Asia based on an examination of historical documents of the area. The project members, researchers in the field of history and law, investigated themes in their own fields and presented the findings at academic meetings to deepen understanding of the subject area. The study was extended from Central Asia to Central Eurasia. The findings of this project are available on the Kyoto University of Foreign Studies website. The report will be published in the spring of 2014 under the title, *Juridical System in Modern Central Eurasia* (tentative title).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2012年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	12,300,000	3,690,000	15,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

 キーワード：中央アジア、イスラーム社会、ロシア帝国、文書史料、ウズベキスタン、近代史、
司法制度、国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

（1）中央アジアの近代史研究は、ロシアの進出と現地社会の対応を共通のテーマとし、両者の対立構造を軸として実施されてきた。とくに、現地社会を律していたイスラーム法と、支配者が持ち込んだロシア法とは、全く異質のものとして理解され、その前提に基づいて

研究が行われていたように思われる。

（2）また、研究に利用する歴史資料の面においては、ロシア側の史料に基づくものが主流で、現地語史料の利用は限られたものであった。しかしながら、公的な古文書館の整備や、民間に所蔵されていた古文書類の発掘によって、膨大なロシア語文書には及ばないな

がら、現地に残された文書史料の利用も可能となってきた。そうした中で、当時の現地社会を、住民の視点から具体的に明らかにしようとする研究の必要性が、改めて実感されるようになってきたのである。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、近代におけるロシアの中央アジア支配の実態を、現地に残された文書史料を利用して行政制度と法制度の両面から分析し、当時のイスラーム地域社会の具体像を明らかにしようとしたものであった。

(2) 本研究の第二の目的は、文書に記された個々の事例を収集・分析して類型化することによって、伝統的なイスラーム法によって律された社会に、支配者であるロシアによって持ち込まれた行政システムとロシア法がどのように適用されたかを解明することによって、一般的には、現地社会を干渉することが比較的少なかったと考えられているロシアの統治政策を再検討することであった。

3. 研究の方法

(1) 研究の目的を達成するために、行政制度の解明を目指すA班と、法制度の研究を担当するB班とを組織し、それぞれ研究会等を開催して研究を進めることとした。研究代表者の堀川が全体を統括し、研究分担者の矢島をA班の、同じく磯貝をB班の取りまとめ役とした。連携研究者と、研究協力者はいずれかの班に属したが、研究会等へは自由に参加して、各自が設定したテーマに沿って研究を進めることとした。

各メンバーの研究を深め、その研究成果を発表するために、A班では平成21年度から、「パーレン研究会」を立ち上げ、1908年にロシア帝国の命令で中央アジアを視察したK.K.パーレンの詳細な報告書を研究対象とする作業を開始した。B班では、すでに本プロジェクト開始以前の平成19年より開催していた「中央アジアの法制度研究会」を、それまで同様に年2回開催して研究活動の中心とした。

(2) こうした研究活動を遂行する上で、研究環境を整備する必要があった。本研究では、研究史料として現地で作成された古文書を利用する方法をとったが、そうした古文書類は、研究の主要対象としたウズベキスタン共和国では、公的な古文書館等に相当数が所蔵・整理されているものの、いまだ民間に多くの古文書が残存していた。これらの古文書を、ウズベキスタンの海外研究協力者とともに収集し、現地の公的機関に寄託するとともに、そのデジタル・データを持ち帰って京都外国語大学に保存することとした。

また、こうした古文書を解読するための手法を研究者の間で広く共有し、とくに若手の

研究者を育てるために、これも、平成14年度より継続して行ってきた「中央アジア古文書研究セミナー」を毎年1回開催することとした。

4. 研究成果

(1) 研究会の開催

① パーレン研究会

平成22年2月23日に、京都外国語大学において準備会議を開催し、研究会を立上げた。

平成22年10月3日に京都外国語大学において、パーレンの研究で名高いB.ペナティ、A.モリソン両氏を招いて研究会を開催した。

② 中央アジアの法制度研究会

本研究の中核をなす研究会と位置づけ、毎年2回ずつ研究会を開催した。4年間8回の研究会で、当初目指していた研究目的に関しては、イスラーム法廷における裁判システムの詳細が明らかになったことと、ロシア帝国によって持ち込まれた再審制度が、実質的に機能していた具体例が明らかにされたことは特筆すべき研究成果と言えよう。その他、研究会を重ねていく中で、新たな研究の展望が生まれてきたことも研究成果にあげてよかろう。開催された研究会は以下の通りである。

平成21年度は、「所有」と「裁判」を共通のテーマとして企画し、通算第5回は5月31日に京都外国語大学で、イスラーム法に関わる研究発表が行われた。第6回は、11月28～29日に静岡大学および静岡労政会館で、法学研究者の立場から「裁判制度」に関する発表が行われた。

平成22年度は、第7回を5月30日に京都外国語大学で、第8回を12月4～5日に静岡大学で開催した。

平成23年度からは、研究参加メンバーが各自設定したテーマに沿った発表と同時に、研究対象範囲を拡大して、清朝支配時代のモンゴルや、イギリス支配期のマレーシアなど、本研究の課題との比較研究をも試みることにした。第9回は6月25日に京都外国語大学で、第10回は12月3～4日に静岡大学でそれぞれ行われた。

平成24年度は、最終年度に当たるため、研究成果の取りまとめと公表に向けた準備を、本研究に参加したメンバーすべてが取り組むこととした。第11回は、6月23日に京都外国語大学で、第12回は12月15～16日に静岡労政会館で行われ、研究発表とそれに基づく討論の中から、中央ユーラシアに広く視野を広げて、さらに新たな研究プロジェクトを企画する必要性が、参加者の間で認識されるに至った。

(2) 国際会議の開催と参加

① 平成21年9月3～5日に、京都外国語大学と、連携研究者である小松が代表を務めて

いた NIHU 研究プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、および、ウズベキスタン共和国科学アカデミー東洋学研究所とが、タシュケント市において共催した国際会議「日本・ウズベキスタンの研究協力：中央アジアの歴史と文化（史料と方法論上の諸問題）」に、研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者の多くが参加し、何人かが研究発表を行うとともに、司会を担当するなど会議の運営に当たった。

② 平成 24 年 11 月 18 日に、京都大学大学院文学研究科ユーラシア文化研究センター（羽田記念館）において、同センター等と共催で、国際ワークショップ「中央ユーラシアにおける古文書の保存と研究」を開催した。本研究プロジェクトの根源をなす古文書研究をテーマとしたのは、研究の完成年度にあたって、ロシア連邦とウズベキスタン共和国から招聘した研究者とともに、今一度原点に帰って研究を見つめ直す機会をもちたかったからである。招聘した二人の研究者は、11 月 20 日に、研究代表者、分担者、協力者らが参加して東京の東洋文庫で開催された特別講演会で講演をしたことを付記しておく。

（3）研究環境の整備

① 研究を実施した 4 年間、ウズベキスタン共和国のフェルガナ州およびヒヴァ市を中心に、ウズベキスタンの研究協力者とともに民間に所蔵されている古文書の収集活動と、それらの撮影を行った。収集された古文書自体は、フェルガナ郷土博物館等とヒヴァ市イチャン・カラ博物館が収蔵し、撮影したデジタル・データは京都外国語大学に保存することとしたが、古文書の総数は 1,170 点におよんだ。今後、これらのカタログを作成する作業を両国の研究者が協力して行い、データを公表して研究に利用できる状況を作り出したいと考えている。

② 古文書解読の手法を、わが国の研究者間で広く共有する目的で、「中央アジア古文書研究セミナー」を毎年 1 回、京都外国語大学で継続的に開催した。通算第 8 回のセミナーは平成 22 年 4 月 3 日に、第 9 回は平成 23 年 3 月 26 日に、第 10 回は平成 24 年 3 月 24 日に、第 11 回は平成 25 年 3 月 21～22 日に行われている。このセミナーには、とくに若手の研究者、大学院生・学生の参加を呼びかけており、後継研究者が着実に育っていることを実感している。

以上、研究成果欄で記載した研究会、国際ワークショップ、セミナーに関しては、NIHU 研究プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点と共催しており、それぞれの会の活動報告は、以下のウェブサイトに掲載されている。

http://www.tbias.jp/php/investigation_detail.php?year=past

また、NIHU 研究プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点と共催した国際会議の詳細に関しては、

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokyo-ias/centraleurasia/meeting/2009/090904.htm> を参照願いたい。

（4）研究成果報告論集の公表

上述したような本研究の推移と、個々のメンバーによる研究の成果は、下記の「5. 主な発表論文等〔その他〕」の欄に記したウェブサイト、「研究成果報告論集」としてアップする。それには、研究代表者による報告と、研究分担者、連携研究者、研究協力者、研究会参加者あわせて 10 名の論文が掲載される予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 30 件）

① 磯貝健一、近代中央アジア・イスラーム法廷文書の世界『歴史と地理 世界史の研究』661、2013、21-30、査読無

② 宇山智彦、セミパラチンスク州知事トロイニツキーとカザフ知識人弾圧：帝国統治における属人的要素、中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社、2013、74-91、査読無

③ 小松久男、汎イスラーム主義再考：ロシアとイスラーム世界、塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア』（ユーラシア世界 3）東京大学出版会、2012、19-50、査読無

④ 宇山智彦、帝政ロシア支配の実像とロシア・ムスリム知識人たち、帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『中央アジア』（朝倉世界地理講座 5）朝倉書店、2012、173-182、査読無

⑤ Uyama Tomohiko, “Mutual Relations and Perceptions of Russians and Central Asians: Preliminary Notes for Comparative Imperial Studies,” *Empire and After: Essays in Comparative Imperial and Decolonization Studies* (Sapporo: Slavic Research Center, 2012), 19-33. 査読無

⑥ 宇山智彦、カザフ知識人にとっての〈東〉と〈西〉：階層的国際秩序の認識と文化的精神性の希求、塩川伸明、小松久男、沼野充義、宇山智彦編『ユーラシア世界 1 〈東〉と〈西〉』東京大学出版会、2012、153-179、査読無

⑦ Uyama Tomohiko, “The Alash Orda’s Relations with Siberia, the Urals and Turkestan: The Kazakh National Movement and the Russian Imperial Legacy,” in Uyama Tomohiko, ed., *Asiatic Russia: Imperial Power in Regional and*

International Contexts (London: Routledge, 2012), 271-287、査読無

⑧ 大江泰一郎、ロシアの法学と「市民社会」の概念—パシュカーニス理論を再読する、『早稲田法学』87(2)、2012、27-74、査読有

⑨ 大江泰一郎、ロシア法史と「市民社会」の概念：パシュカーニス理論を再読する（その2）、『静岡法務雑誌』4、2012、77-103、査読有

⑩ 近藤信彰、19世紀テヘランのマドラサとワクフ、『アジア・アフリカ言語文化研究』84、2012、67-104、査読有

⑪ 堀川徹、中央アジア文化における連続性について—テュルク化をめぐる—、森部豊他編『アジアにおける文化システムの展開と交流』関西大学出版部、2012、35-56、査読無

⑫ HORIKAWA Toru, Islamic Court Documents as Historical Sources in Central Asia, B. BABADJANOV & KAWAHARA Y. (eds.) *History and Culture of Central Asia*, 2012、73-84、査読有

⑬ YAJIMA Yoich The Spread of the Kubrawiya, B. BABADJANOV & KAWAHARA Y. (eds.) *History and Culture of Central Asia*, 2012、229-240、査読有

⑭ 矢島洋一、非アラビア文字表記新ペルシア語、近藤信彰編『ペルシア語文化圏史研究の最前線』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）、2011、13-30、査読無

⑮ ISOGAI Ken'ichi Seven Fatwa Documents from Early 20th Century Samarqand: The Function of Mufti in the Judicial Proceedings Adopted at Central Asian Islamic Court. *Annals of Japan Association for Middle East Studies* 27-1、2011、259-282、査読有

⑯ 磯貝健一、ウズベキスタンの「イスラーム法廷文書」、『ユーラシア研究』45、2011、58-60、査読無

⑰ 近藤信彰、19世紀後半のテヘランのシャリーア法廷台帳、『東洋史研究』70(2)、2011、389-420、査読有

⑱ 磯貝健一、中央アジア・イスラーム法廷における裁判システム—20世紀初頭サマルカンドのファトワー文書を中心として—、『北海道大学スラブ研究センター共同利用・共同研究拠点公募プログラム・シンポジウム「北西ユーラシア歴史空間の再構築 ロシア外部の史料を通じてみた前近代ロシア世界」報告書』、2010、147-185、査読無

⑲ Uyama Tomohiko, “The Roles of Small Regions in Intercultural Relations and Conflicts: The Bökey Horde, Gorno-Badakhshan and Abkhazia,” in Anita

Sengupta and Suchandana Chatterjee, eds., *Eurasian Perspectives: In Search of Alternatives* (Delhi: Shipra Publications, 2010), 64-77、査読無

⑳ 矢島洋一、ペルシア語文化圏におけるスーフィー文献 著述言語の変遷とその意義、森本一夫(編)『ペルシア語が結んだ世界』北海道大学出版会、2009、67-95、査読有

㉑ 磯貝健一、イスラーム法とペルシア語前近代西トルキスタンの法曹界、森本一夫(編)『ペルシア語が結んだ世界』北海道大学出版会、2009、97-128、査読有

㉒ Komatsu Hisao, “From Holy War to Autonomy: Dar al-Islam Imagined Turkestani Muslim Intellectuals,” in Svetlana Gorshenina et Sergej Abashin eds., *Le Turkestan russe: une colonie comme les autres?*, *Cahiers d'Asie Centrale*, NO. 17/18, 2009, 449-475、査読無

㉓ 近藤信彰、イスラーム法と執行権力—19世紀イランの場合、佐々木有司(編)『法の担い手たち』国際書院、2009、287-306、査読無

〔学会発表〕(計22件)

① 矢島洋一、ウズベキスタン共和国中央国立図書館所蔵ロシア統治期民衆法廷台帳について、国際ワークショップ「中央ユーラシアにおける古文書の保存と研究」、2012. 12. 18、京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター(羽田記念館)

② 堀川徹、中央アジア史研究のパススペクティブ、第11回中央アジアの法制度研究会、2012. 06. 23、京都外国語大学

③ 磯貝健一、20世紀初頭の中央アジア・イスラーム法廷における紛争解決過程について、第11回中央アジアの法制度研究会、2012. 06. 23、京都外国語大学

④ 矢島洋一、ロシア統治期サマルカンドの上訴審、第10回中央アジアの法制度研究会、2011. 12. 4、静岡大学

⑤ 堀川徹、モンゴル時代以降の西部内陸アジア史—実証研究の深化と展開の可能性、内陸アジア史学会50周年記念公開シンポジウム、2010. 11. 13、早稲田大学

⑥ 堀川徹、中央アジア文化における連続性について、関西大学3研究所合同シンポジウム、2010. 12. 3、関西大学

⑦ Uyama Tomohiko, “Central Eurasian Studies in Japan: A Close Combination of Russian and Oriental Studies,” ICCEES VIII World Congress, 2010. 7. 30, Stockholm, Sweden.

⑧ 磯貝健一、革命前夜の中央アジアにおけるイスラーム法裁判システム、第7回中央アジアの法制度研究会、2010. 5. 30、京都外国語大学

⑨ 堀川徹、中央アジアにおける「テュルク・イスラーム文化」の実像、平成21年度第7回東西学術研究所研究例会、2010.2.12、関西大学

⑩ YAJIMA Yoichi, Islamic Court Documents and Court Registers in Ferghana Province under Russian Rule, *Social History of Modern Central Asia: A Focus on Arabic-Script Documents (18th-20th Centuries)* 2009.12.12. Martin-Luther-Universität, Halle-Wittenberg, Germany.

⑪ Uyama Tomohiko, "Changing Religious Orientation among Kazakh Intellectuals in the Tsarist Period: Between Sharia, Secularism, and Philosophical Search," International Workshop "Religion and Society in Central Eurasia: New Sources for the Religious History of Kazakhstan," Cini Foundation, 2009.10.30, Venice, Italy.

⑫ 矢島洋一、近代中央アジアのイスラーム法廷資料、第5回中央アジア法制度研究会 2009.5.31、京都外国語大学

[図書] (計4件)

① V. V. バルトリド (小松久男監訳) 『トルキスタン文化史 1・2』平凡社 (東洋文庫)、2011、第1巻: 314、第2巻: 379

② 磯貝健一 (共編)、NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点オスマン民法典 (メジェッレ) 研究序説、2011、55

③ 堀川 徹 (共著)、『イスラームの歴史1 イスラームの創始と展開』、山川出版社、2010、196-237

[その他]

ホームページ等

<http://www.kufs.ac.jp/aboutkufs/kikan/okusaigengo/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀川 徹 (HORIKAWA TORU)
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 60108967

(2) 研究分担者

矢島 洋一 (YAJIMA YOICHI)
京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師
研究者番号: 60410990

磯貝 健一 (ISOGAI KEN'ICHI)
追手門学院大学・国際教養学部・准教授
研究者番号: 40351259

(3) 連携研究者

小松 久男 (KOMATSU HISAO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・特任教授
研究者番号: 30138622

宇山 智彦 (UYAMA TOMOHIKO)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号: 40281852

大江 泰一郎 (OHE TAIICHIRO)
静岡大学・大学院法務研究科・名誉教授
研究者番号: 00097221

近藤 信彰 (KONDO NOBUAKI)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号: 90274993